

4 取組の方向

目標1

多様なひと・もの・ことが集まり 新たな産業・文化・交流が生まれる都心

北海道・札幌市の魅力と活力をけん引する高次の都市機能の集積を図り、多くの人が集い交流し、まちの価値を高めていく取組の好循環を展開することで、国際競争力を備えた都心を実現します。

成果指標	都心における純付加価値額の上昇率
目標値	札幌市と経済規模が同規模の地方の中心都市の平均以上(2021年→2041年)

基本方針1-1 多くの人を呼び込む「高次都市機能の集積」

- 国内外からビジネスパーソンや観光客が訪れたいくなり、市民にとっては働く場としても出かけたいくなる場としても魅力的に感じる都心であるために、都市機能の集積・高度化を図ります。
- 建物の更新の機会を的確に捉え、投資を呼び込み、経済をけん引する国際的な活動の拠点にふさわしい市街地を形成します。

1-1-1 アジア・世界に誇れる先進的なビジネス環境の形成

- 札幌・北海道の経済をけん引する企業の集積
- ワーカーの更なる活躍を引き出すビジネス環境の整備



1-1-2 北海道観光の玄関口にふさわしい機能の集積

- 多様な交通アクセスの充実・交通結節点の強化
- 多様なニーズを受け入れる滞在環境の充実
- MICEの推進
- 札幌ならではの付加価値の高い観光コンテンツの提供
- 観光客の受入機能の強化



1-1-3 多様な消費活動や体験が広がる場と機会の充実

- 多くの人をひきつける機能の集積
- 豊かな時間消費を支える場と機会の充実



1-1-4 地域特性に応じた機能の誘導

- 地域特性やまちづくりの動向を踏まえた機能の誘導

高次都市機能の集積を図るエリア

地域ごとの特性を生かしながら、都心にふさわしい業務・商業・集客交流・宿泊等の都市機能の充実・強化を図るエリア

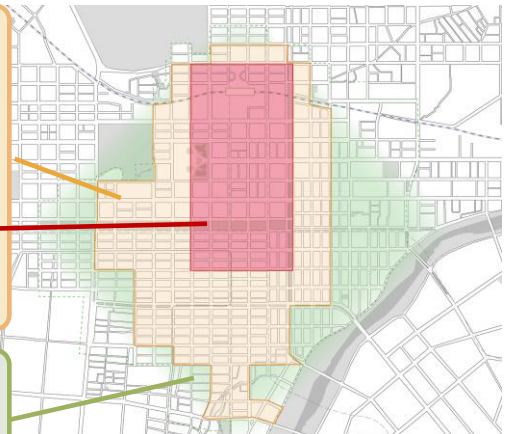
都心機能強化先導エリア

目標1の先導・主要エリア

業務機能等を国際水準に高め、国際競争力をけん引していくエリア(高次の都市機能の誘導を集中的に展開し、これら以外の居住機能等の立地に対しては協議・調整を図る)

居住を含む複合市街地を形成するエリア

多様な都市機能で構成され、職・住・遊が近接した魅力的な市街地の形成を目指すエリア

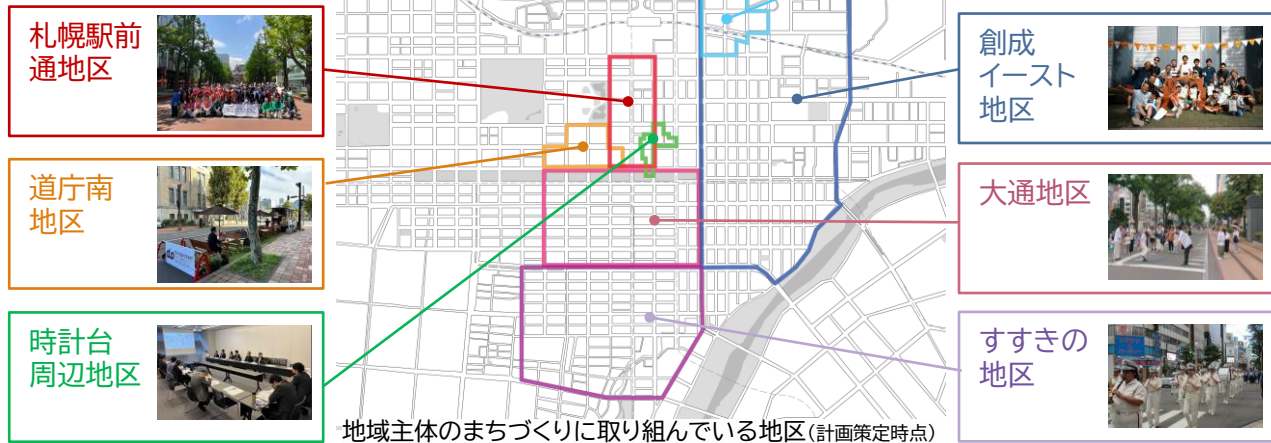


基本方針1-2 札幌らしい「都市のブランド力の強化」

- エリアマネジメントの推進により都心の各エリアが個性を磨き、みどりや雪を生かした景観や誰もが快適に過ごせる環境を整えていくことで、世界が憧れ市民が誇れる「札幌らしさ」を醸成していきます。

1-2-1 エリアの魅力や個性の発揮

- 地域主体のエリアまちづくりの推進
- まちへの愛着の醸成



1-2-2

誰もが快適に過ごせる環境の整備

- 誰もが利用しやすい環境の整備
- わかりやすい案内の充実
- 安心して訪れることができる環境の整備



1-2-3

みどりのうるおいと木のぬくもりを感じられるまちの形成

- 多面的な機能をもつ都市緑化の促進
- 建築物等における道産木材利用の促進



1-2-4

札幌らしさが際立つ魅力的な景観の形成

- 洗練され、うるおいのある景観形成の推進
- 季節や時間ごとに異なる表情やにぎわいを感じる景観形成の推進



基本方針1-3 シティプロモーションの強化

- 都心まちづくりの取組を多様な主体間で共有し、都心の魅力や価値を一体となって発信することに注力します。
- 共感した市民や来街者が発信することを促し、さらに人や投資を呼び込んでいく好循環が生まれることを目指します。

1-3-1 都心の魅力や価値を国内外に届けるシティプロモーションの強化

- 世界に向けた発信力の向上
- 都心まちづくりの取組の共有・浸透



目標2

冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心

春季・夏季・秋季はもとより、積雪のある冬季においても、訪れる人それぞれが安心・快適に過ごせ、交流できる居場所があり、歩きやすく、まちにみどりやにぎわい、変化が感じられ、居心地が良く、まち巡りを楽しめる都心を実現します。

成果指標	成果指標① 主要地点における 歩行者交通量(平均値)	成果指標② 「まち歩きが楽しめる通り や場所が多い」と評価して いる人の割合
目標値	18,800人/日(2024年度) ⇒ 20,500人/日 (2044年度)	60.6%(2024年度) ⇒ 70.0% (2044年度)

基本方針2-1 札幌都心ならではの「魅力的なストリートの形成」

- 札幌都心の格子状の街路網は街並みが単調になりがちであることから、ストリートの魅力や個性を高めることが重要です。また、積雪寒冷地であることも踏まえ、季節や天候・目的によって選択性が高く、多様性に富んだ地上・地下の空間を形成することも重要です。
- こうした取組によって、来街者がにぎわいを感じられ、思わず回遊したくなる、札幌都心ならではの魅力的なストリートを形成します。

2-1-1 格子状の街路網の特徴を生かした、ストリートの魅力や個性の向上

- 回遊の基軸となる象徴的なストリートの形成
- 街路と沿道が一体となった魅力的な街路空間の形成
- 見通しの良さを生かした通りの景観形成や交差点における辻空間の魅力の向上



2-1-2 選択性が高く、多様性に富み、みどり豊かな、回遊したくなるストリートの形成

- 季節や天候、目的等による選択性が高い、滞在空間や回遊を促す歩行空間の創出
- 滞留や交流などの多様な活動ができるパブリックスペースの創出

2-1-3 積雪寒冷地ならではの屋外空間における魅力的な景観形成やにぎわいの創出

- 積雪期の魅力とにぎわいも考慮した札幌都心ならではのストリートの形成

基本方針2-2 都心のまちづくりを支える「機能的な交通環境の構築」

- 都心のにぎわいを創出し、その魅力と活力をさらに向上させるためには、都心における商業活動や文化活動、観光などの多様な活動を支える交通環境の構築が重要です。
- 人や商品・物の円滑な移動や荷さばき、公共交通の乗降、これらと密接に関連する駐車施設の適正配置などについて、多様な主体との連携を図りながら、都心の将来を見据えた機能的な交通環境を実現します。

2-2-1 都心に必要な交通機能やアクセス環境の確保

- 各路線相互の機能分担と各路線における必要な機能の配置
- 都心を目的地としない通過交通の適切な誘導等
- 都市活動を支える、荷さばきや人々の乗降などの空間の確保
- 駐車場の配置等の適正化



2-2-2 四季を通じて快適に移動できる環境の充実

- 安全・安心かつ円滑な歩行者動線の充実
- 交通結節点と都心内の移動手段との接続の円滑化
- 公共交通などの待合い、休憩環境の充実



基本方針2-3 多様な活動や交通環境を充実させる「戦略的なマネジメント」

- 多様な活動や交通環境を充実させるためには、基本方針2-1、2-2の取組に加え、道路、公園、河川、公開空地等のパブリックスペースにおいて、多様な活動や魅力的なコンテンツを創出することや、交通面においても効果的、効率的な道路空間の運用をしていくことが重要です。
- そのために必要となる戦略的なマネジメントを進めます。

2-3-1 パブリックスペースにおける多様な活動や魅力的なコンテンツの創出によるにぎわい・交流の促進

- パブリックスペースの多様な利活用を促進する仕組みの構築
- 柔軟かつ持続可能な利活用を実現する仕組みや体制の構築と情報発信



2-3-2

雪という札幌の個性を生かした、パブリックスペースの冬の利活用の促進

- 冬季の屋外空間や屋内空間の柔軟な利活用



2-3-3

限られた道路空間の運用の全体最適化

- 既存道路の利活用の工夫や道路空間の再編等

2-3-4

関連分野と連携した取組

- 健康(ウェルネス)や脱炭素(エネルギー)施策等への波及

主要回遊エリア・主要検討路線等

- 目標2の「取組の方向」を主に展開し、面的な回遊を強化する「主要回遊エリア」と、主要施設や魅力的な目的地、駅などを結び、回遊・滞在機能の強化に向けて検討を進める「主要検討路線」及び「拠点的交流空間検討箇所」を設定します。

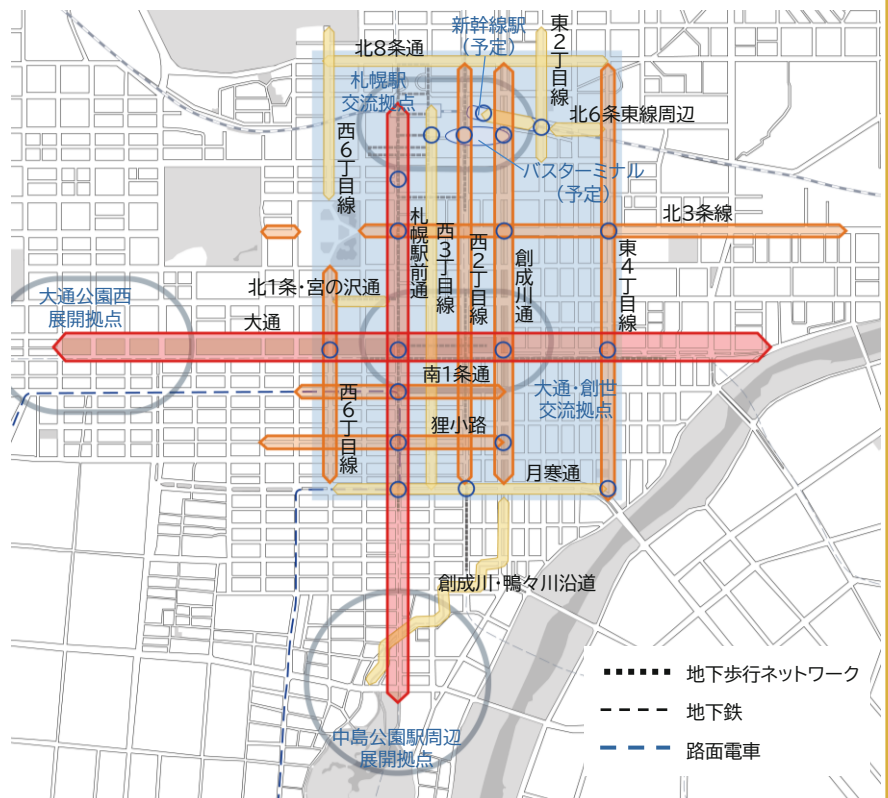
目標2の先導・主要エリア

主要回遊エリア(面的な回遊を強化するエリア)
:「まちの資源」をもとに、主要施設が比較的多い範囲を設定

主要検討路線 (回遊・滞在の視点)
↑ 重要度【高】

:主要回遊エリアや主要施設に加え、都心の骨格構造や関連計画、関連するまちづくり団体の取組状況等を踏まえて設定

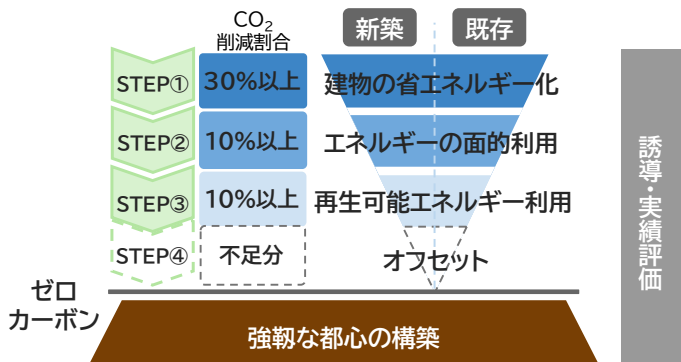
拠点的交流空間検討箇所
:主要検討路線が交差する箇所などを位置付け



目標3

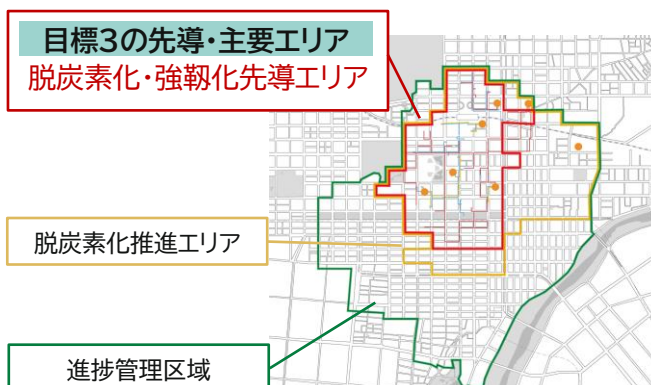
気候風土に即した先進的な取組により 脱炭素化・強靱化が進む都心

札幌特有の気候や地域特性に応じたまちづくりとエネルギー施策の一体的な取組の展開により、将来に渡り発展し続けるとともに安全・安心な都市活動を支え、世界から信頼される持続可能な都心を実現します。



〈建物における目標実現に向けた取組のイメージ〉

成果指標	都心の建物から排出されるCO ₂ 排出量
目標値	2050年のCO ₂ 排出量実質ゼロ (2013年度比で100%削減)



基本方針3-1 最適な手法の組合せによる脱炭素化の推進

- 2050年のゼロカーボンの達成に向けて「建物の省エネルギー化」、「エネルギーの面的利用」、「再生可能エネルギー利用」の三つの手順により建物からのCO₂排出量を削減することとし、建物の立地や規模、用途構成などに応じた最適な手法の組合せにより都心の脱炭素化を推進します。
- 現状においては、三つの手順だけではゼロカーボンを達成することが困難であることから、この不足分を補うために「オフセット」も活用することとします。
- 本計画期間中に建替更新が行われない既存建物のうち、とりわけ老朽化が進んだものは省エネ性能が低く、建物が解体されるまで多くのCO₂を排出し続けることから既存建物への取組を強化します。

3-1-1 新築や建替更新、改修時の徹底した省エネ化の推進

- 新築や建替更新、改修時における省エネ化
- 建物の立地、規模、用途構成などに応じた効果的な省エネ設備の導入拡大
- 新築建物及び既存建物へのBEMS導入拡大
- エコチューニング®を通じた既存建物におけるエネルギー利用の運用改善
- 中小規模建物への効果的な支援策の検討

3-1-2 エネルギーの面的利用の更なる拡大と効率化

- エネルギーネットワークへの接続の推進
- 都市開発と連動したエネルギーセンターの整備や冷温水導管の拡大
- 複数のエネルギーセンター間の連携に向けた熱導管の拡充
- エネルギーセンターにおける熱の脱炭素化の推進
- 既存のエネルギーネットワークとの接続が難しい地域における拠点型エネルギー供給の推進

3-1-3 先進技術を活用した再生可能エネルギーの導入

- オンサイトでの再エネ導入
- オフサイトPPAによる再エネ電力の導入
- エネルギーセンターへの木質バイオマスなどの再エネ導入拡大
- 北海道内自治体との連携による再エネ電力の導入
- 再エネに由来する水素エネルギーなど新技術の導入検討
- 再エネに由来するクレジット等を活用したCO₂オフセット

基本方針3-2 雪や寒さにも負けない、安全・安心で強靱な都心の構築

- 札幌都心は、市民、観光客、ワーカーなど多様な人々が集まり、日々様々な都市活動が行われる重要な場所です。
- こうした都市の活動を安定的に継続し、誰もが安心して過ごせる環境を確保するためには、冬季の厳しい気象条件や自然災害を見据えた備えが不可欠であることから、まちづくりとエネルギー施策を一体的に進め、災害に強く、持続可能で誰からも信頼され、安全・安心で強靱な都心を構築します。

3-2-1 災害時における市民、来街者、ワーカーの安全確保

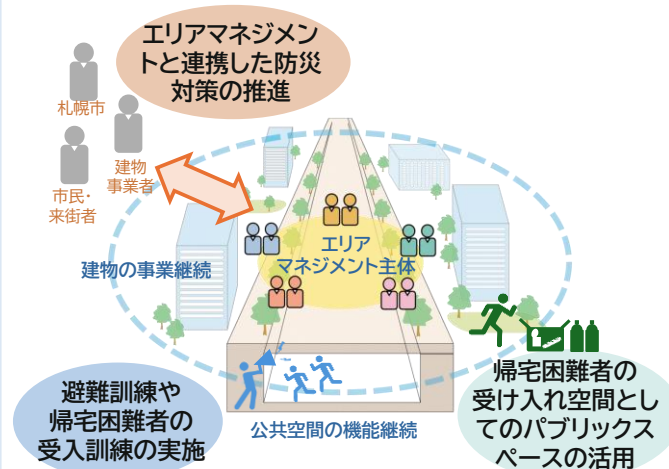
- 民間建築物等の耐震化
- 冬季における災害を想定した一時滞在施設の整備
- 一時滞在施設への電力・熱・水の供給継続
- 地下空間における浸水対策の推進
- 災害発生時における来街者への情報伝達の強化

3-2-2 経済活動を維持するための備えの充実

- 非常用電源の整備促進
- 複数回線受電による業務継続体制の強化
- 都市開発と連動したエネルギーセンターの整備(再掲)
- 防災備蓄倉庫の整備促進

3-2-3 多様な主体による防災に向けた取組の促進

- エリアマネジメントと連携した防災対策の推進
- 帰宅困難者の受入空間としてのパブリックスペースの活用



基本方針3-3 先進的な取組の誘導と適切な進捗管理

- 基本方針3-1、3-2に示す脱炭素化の推進、強靱な都心の構築を着実に進めるために、建替更新や改修の機会を的確に捉えて建物の立地や規模、用途構成などに応じた効果的な取組を「誘導」とともに、適切に「実績評価」を行うことにより計画の実効性を確保します。
- また、「誘導」と「実績評価」により得られた知見は、他の建物への波及や新たな施策に生かすことにより、更なる取組の強化につなげていきます。

3-3-1 建物の特性に応じた効果的な取組の誘導

- 「札幌都心E！まち開発推進制度」による取組誘導
- 既存建物の改修等を促す誘導方策の検討

3-3-2 着実に脱炭素化を推進するための実績評価

- 「札幌都心E！まち開発推進制度」における運用実績報告によるCO₂削減量のモニタリング及び公表
- モニタリング結果の適切な評価と追加施策の検討
- 特に優れた取組を実施する建物の認定及び公表



3-3-3 先進的な取組誘導・評価制度の確立

- 「札幌都心E！まち開発推進制度」の運用改善
- 認定制度の効果的な活用方策の検討
- 都心まちづくりの総合性・一体性の確保につながる取組の誘導・評価制度の確立